



創学舎 百人一首大会2023

去る六月十七日、創学舎では小学生対象の「百人一首大会」を開催しました。コロナ禍明け、四年ぶりの開催となります。当日は天気にも恵まれ、出場者の方々や見学にいらっしやうた保護者の方々のおかげで、非常に盛り上がりました。この場をお借りして御礼申し上げます。



大会に先立ち、国語の授業時間を使い、事前「かるた取り」を実施しました。私が担当するコースでは、ほとんどの生徒が「かるた取り」を経験したことがなく、詠まれた札を探すのに最初はかなり苦労していました。けれども、回数を重ねるごとにスピードが上がっていき、取れる札の枚数も多くなっていきました。慣れてくると、単に札を取るだけでなく、百人一首の音のおもしろさにも注目する生徒が増えました。たとえば、第二十四首「このたびはぬさもとりあへず 手向山 紅葉の錦 神のまにまに」という歌では、「このたびは」と詠み手が読み始めたところで、「まにまにの句だ!」とあちこちから声があがり、結びの句から札を探す生徒た

ちが続出しました。

今大会は、参加者を小五以下と小六の二ブロックに分け、ブロックごとに二人一組によるチーム戦を三戦行いました。初対面の生徒同士がチームとなることもあり、最初は緊張した面持ちでしたが、試合が始まるとど

んどん札を取り始め、勝利すると手を取り合っていました。大会の中盤には皆緊張もほぐれて、札を取るスピードがさらに増し、白熱した展開となりました。



ここで、今大会の受賞者の方々をご紹介します。個人総合順位は、各ブロックにおける、全三試合の取り札の合計枚数によるものです。

【最優秀賞(個人総合第一位)】

※図書カード三千円分贈呈

○・Sさん(柏市立第五小学校六年)

【優秀賞(個人総合第二位)】

※図書カード二千円分贈呈

I・Kさん(柏市立松葉第一小学校六年)

【敢闘賞(個人総合第三位)】

※図書カード千円分贈呈

H・Mさん(我孫子市立根戸小学校五年)

【パーフェクト賞(該当者五名)】

※クオカード五百円分贈呈

*パーフェクト賞は三試合全勝したチームのメンバーが対象です。

○・Mさん(我孫子市立第四小学校六年)

○・Mさん(我孫子市立第四小学校四年)

○・S君(我孫子市立第四小学校二年)

H・Kさん(我孫子市立根戸小学校六年)

I・Kさん(柏市立松葉第一小学校六年)

表彰された皆さん、誠にありがとうございます。なお、ささやかではございますが、今大会に出場してくださった方々全員に参加賞を贈呈しております。皆さんにとって良き思い出の品になれば幸いです。

最後になりますが、今大会を通じて、「かるた取り」の楽しさを体感できただけでなく、百人一首暗唱に良い影響を及ぼすことを願っています。百人一首暗唱を続けることで、地頭を鍛え、古典に親しみ、ますます成長していく皆さんの姿を楽しみにしています。(津田)

父の日参観

私には、今年四歳になる子どもがいる。その子は三人目の子どもになるのだが、上の二人とは違って、家内と離れることを極端に嫌う。たとえば、

母親がちよつとした買い物のために家を出る準備を始めると、一緒に行くと大声で泣きわめく。家に私がいてもダメらしい。また、家族で出かけたとき、私が息子の安全を考えて手をつなごうとすると、「いやっ。」と手を振り払われ、母親の手を握ろうとするのだ。そんなとき私は(まあ男の子だから、父親よりも母親に懐くのも仕方がないなあ)と、自分に言い聞かせているが、やはり少しは傷つく。

そんな息子も、今年幼稚園に入園した。入園する前からプレ保育で通っていたので、幼稚園には慣れ、また、母親と離れて幼稚園で過ごすことも行っていたので、入園後も特に問題ないと思っていたが、そんなことはなかった。入園式を迎えて数日経ったとき、急に幼稚園に行きたくないと言

い出したのだ。そして、言い出すのは決まって、家を出る直前だった。バスの時間があるため、二人は焦りながらも、何とか息子の機嫌をとって幼稚園に行きたくなるようにあれこれ試みるが、全く効果なく、最終的には息子を抱きかかえて、無理やりバス停に向かうのであった。

そんな日々を過ごす中、六月に幼稚園で父の日参観があった。このイベントは、毎年行われる恒例行事であったが、最近ではコロナ禍のため、小規模に行われていた。しかし、今年は違って、自宅から幼稚園まで子どもと一緒に歩いて登園することになった。そして、ただ歩くのではなく、幼稚園が指定したチェックポイントをいくつか回り、そこにいる先生からスタンプを押してもらって、幼稚園を目指すものだった。イベントの概要を聞いた私は、不安を隠しきれずにいた。息子はきちんと歩いてくれるのか、交通量の多い道路では、手をつないでくれるのか……。そんな中、当日を迎えた。

朝起きてみると、息子は元気に支度をしていた。これから幼稚園に向かうというのに、嫌がりもせず着替えや食事を済ませていった。またその日は、幼稚園で畑の草取りが行われるため、家内と上二人の子どもは先に家を出ることになっていたが、大泣きをすることなく、息子は三人を見送った。そして、いよいよ私たちが出発する時刻になった。家を出て敷地を超えた辺りで、手をつなぐようという、息子は素直に手をつないだ。(おっ、今日は機嫌がいい。これなら園までいけそうだ。)心の中で素直に喜んでる自分がいた。私たちは、幼稚園が作成した地図をたよりにいくつかのチェックポイントを回り、無事に幼稚園に辿り着くことができた。途中、チェックポイントの締切時刻が迫っていたため、息子を抱きかかえて走ったが、

それはみんなには内緒にしておこう。そして、幼稚園に着くと、スタンプの確認が行われ、ジュースとお茶が配られた。息子は、ジュースを受け取ると勢いよく飲み、飲み終わった後は園庭を駆け回っていた。私は、そんな息子の様子を眺めながら、お茶を飲んだ。五キロはあるであろう距離を歩いたので、足はものすごく痛かったが、満たされた気持ちで一杯だった。普段と変わらないはずのお茶が、いつもよりおいしく感じた。

教育に携わる仕事に就いていると、子どもの扱いに慣れているので育児もしやすいと思われがちだが、実の子となると、上手くいかないこともある。それは、教育者である前に、一人の父親であるからかもしれない。実の子のことはになると、やはり感情的になり、冷静さを失ってしまう。私もまだ、父親としては半人前だということだ。ただ、半人前だからこそ、子どもの成長を素直に喜べるのかもしれない。子どもと一緒に、ゆっくりと成長していきたい。(矢上)



私と仲間とカバディ

自分の人生を振り返ってみると、あの日のあの出来事が私の人生を変えたと思うことがいくつあるのですが、それらはいずれもスポーツが関与しているものと最近気がつきました。今回はそんな私の思い出話の一つをご紹介します。

実は、私は大学時代カバディの選手でした。カバディはタックルなどの激しい接触が多いスポーツで、高校時代ラグビーをやっていた私はそれだけでグツとひかれ、カバディの世界に飛び込むことを決めました。

カバディは簡単にいうとみんなで相手を捕まえるチームスポーツなのですが、タックルに自信があった私は味方の助けもよそに一人でガンガン相手に突撃し、相手を次々と捕まえていきました。

しかし、そんな私の身勝手なプレーが長きにわたって通用するほどカバディは単純なスポーツではありませんでした。次第に動きが読まれるようになり、経験の浅さから簡単にフェイントに釣られ、タックルでチームを引っ張るつもりが、逆にチームの足を引っ張るようになってしまいました。そうして私は、失点を恐れ思い切ったプレーができない臆病な選手になってしまいました。

そんな中、私のプレースタイルが一八〇度変わる出来事がありました。カバディでは仲間が相手を捕まえに動いたら、それに応じてみんなで助けに行くフォローという動きがあるのですが、ある日の試合中に偶然私が仲間の動きにいち早く反応してフォローに行ったことで、何とか相手を捕まえることができました。また、同じ試合中、今度は私が捕まえに行ったときに、仲間のフォローのおかげで捕まえることができました。この一連のプレーは私を変えらる大きなきっかけになりました。仲間が捕まえきれなくとも、自分が助けてあげれば良い。逆に自分が捕まえきれないときは仲間が助けてくれる。今までの私にはない考え方を育てるようになってからは、プレーにも余裕が持てるようになり、その分良い動きができるようになりました。

そして、それからの私は誰よりも早く仲間を助けることに心血を注ぐようになり、また自分が相手を捕まえに行くときも、仲間が助けに来やすいよう呼吸を合わせてから動くようになりました。チームプレーを強く意識するようになったのです。

時は流れ大学四年、ついに最後の大会がやってきました。負けたら終わりの試合が続く中、生涯忘れることのないだろうビッグプレーが飛び出しました。



仲間が捕まえに行つたのと同時に私を含め全員がフォローに動き出したのです。今思い返してもあの時何を考えて動き出していたのかはわかりません。ただ、気づいたら身体が反応して走り出していたのだけは鮮明に覚えています。阿吽の呼吸で動き出した私たちは見事に相手を捕まえ、勢いに乗った私たちはその試合に勝利することができました。

試合に勝つたこと以上に、最後の大会でチーム一体となったプレーを発揮できたことが何よりも嬉しかったですし、改めてチームメイトをかけがえのない仲間なんだと感じました。大学を卒業し社会人になった今でも、当時の仲間たちとは定期的に会い、思い出話に花を咲かせます。カバディを通じて培った絆はこれからもずっと続いていくでしょう。皆さんも今いる友達が一生涯の仲間になれるよう、ぜひ助け合ってください。

※写真 左から2番目が私。(平野)

創学舎主催「私立高校合同説明会」4年ぶりに開催決定!

創学舎恒例の秋の一大イベント「私立高校合同説明会」が開催されます。創学舎生の受験する主だった高校が一堂に会しますので、各高校の校風や特長、入試方法などを比較するにはとてもいい機会になります。親子で進路について話し合う場として、ぜひご活用ください。

(参加予定校・50音順) 江戸川学園取手高等学校・春日部共栄高等学校・光英 VERITAS 高等学校・駒込高等学校・芝浦工業大学柏高等学校・常総学院高等学校・西武台千葉高等学校・専修大学松戸高等学校・中央学院高等学校・土浦日本大学高等学校・東洋大学附属牛久高等学校・二松學舎大学附属柏高等学校・日本体育大学柏高等学校・流通経済大学付属柏高等学校・麗澤高等学校(以上15校)

日時:令和5年9月23日(土)

午後1:30~4:30

会場:柏の葉カンファレンスセンター

(つくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅西口徒歩2分 三井ガーデンホテル2F)

内容:高校の先生による学校紹介と選抜方法

参加費:無料

協賛:進学研究会・教育開発出版・エデュケーションネットワーク